

第三者評価報告書

委員氏名 施設名		井上 博委員	富樫悦夫委員	対応策	実施期間
みやま荘	評価でき る事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活移行にむけての社会資源の創出とネットワークづくり（グループホーム、共同住居、ワークション、ウイズ等の取組み） ・梓園との食事交換モニター、あさひ寮との地域生活移行の取組みにむけた連携。 ・喫煙室の設置。 ・専門性確保のための方針を明確に提示している。 ・情報開示 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長については、色がはっきりしており行動力が評価できる。地域生活支援センターと協力しながらグループホームを中心とした地域生活をめざした取組みが積極的になされている。 ・タバコを嗜好する利用者が多いことを配慮して、精神障害者の特性を深く考えての生活リズム作り に力をいれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域生活支援を継続していくと共に、社会資源の開拓、創出して いく。 ・生活に変化と潤いを持たせるため、郷土食にとどまらず世界の食事を提 供するなど、食を通した視野の拡大を図るよう今後も実施していく。 ・障害種別に関わらず地域展開していこうという方針を一にした施設が互 いに連携し地域でのネットワークを作っていくことは大切なことであ り、同じ事業団ならばこそロールモデルとしても実践していく必要があ る。 ・喫煙室を新たに設置することで、喫煙のマナーやルールを守り自律的な 生活が出来よう支援していく。 ・新しい喫煙室が完成した際、利用方法について検討しこの一月から利用 を開始したばかりである。今後状況を見て、他の生活面との絡みの中で 利用者と共に考えていく予定である。 ・内部グループと地域グループ間での連携の取り方の検討。職員全体がも っと地域に出て行くような意識の喚起。 ・情報提供の方法の検討、理解を得られるような説明の仕方の検討。 	<p>H16年度 も継続 同上</p> <p>H16年度</p> <p>H15年度 継続</p> <p>H16年度</p> <p>H16年度</p> <p>H16年度</p>
	検討 ・改 善 す べ き 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個性を集団生活の軌範の検討 （アルコール、就寝時間など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムを崩さないように配慮して就寝時間を 守らせていることは理解できるが実際にはその後 も眠れずに外でタバコを吸っている状況がある。 ニードがあることを踏まえ、個人差を認め喫煙場 所を開放する時間帯を延長する等保障すべきと思 われる。一般社会でも早寝早起きの人や遅寝の人 など存在しており精神障害者の特性を受入れなが らもっと工夫が必要と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みやま荘は、100%精神障害者ということで精神科のドクターの指導、 助言を受けながら、精神科薬を服用して生活をしている。アルコールに ついては、精神科薬との相乗作用が出現するため禁止されている。生活 時間については、それぞれの生活障害とどう向き合っていくかというこ とでの個性を尊重しながらも、生活リズムの確立のための支援は継続 していく。 	<p>継続</p>

	全体的所見	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の地域生活を支えるネットワークの拠点としての多様な取組みと専門性の高い職員集団の実践は素晴らしい。 ・現在、荘内で生活する方々についてもより多くの方々が地域で自立的な生活を実現してほしいし、支える広範囲な体制の確立を望みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の方々に対する偏見を少なくしていくためにも実際に地域の中で生活する事により、一般の方々と触れ合うことから理解を深める方向性が窺われた。地域の方々の反応を恐れることなく、新しい取組みに大胆に挑戦している姿勢はこれからの障害者福祉のあり方を考える上で良きモデルになると感じられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域生活支援の拠点として、支援の充実を図っていく。 ・様々な住居の形態、様々な生活の仕方など多様な地域生活のパターンがあることを利用者へ情報を提供すると共に、自立的な生活が出来れば、地域移行が可能であることを知らせていくことで、多くの人が地域生活を目指せるようなシステムを確立していく。 ・グループホームや「だんだん」などの地域展開している地域で近隣の住民との懇談会を定期的を実施して理解と協力を深めていくようにしていく。 ・今後は通所事業への取組みも検討していくと共に、新しい事業として「居宅生活訓練事業」なども視野に入れている。 	<p>継続</p> <p>H16年度</p> <p>継続</p> <p>H16年度</p>
	委員氏名 施設名	笹原京子委員	阿部けい子委員	対応策	実施期間
泉荘	評価できる事項	<ul style="list-style-type: none"> ・今泉福祉村セミナーの開講(開かれた施設、地域に役立つ施設の実践) ・毎食選択メニューで作り、献立の実物が掲示され選択しやすいようにしている。 ・おいしい食事の提供。 ・プライバシーの保護を考慮し、電話ボックスを配置したり外線からの電話も周囲に人のいない部屋にまわしている。 ・モニター事業などを積極的に取り入れている。 ・広報誌「せせらぎ」の表紙に工夫がみられる。(利用者の絵や地域の写真など) ・玄関を入った位置に利用者の方々の絵や書道の展示ボードがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食については、その日の食事は実物で掲示されており、選択性に利用者の主体性を盛り込んでいる点を感じられている。「見て選ぶ」という行為は、美味しさの倍加にもつながるだろうし、実際利用者の評判も良いようだ。 		

<p>検討 ・ 改善 すべき 事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご飯のおかわりができるように(加リ-等を考えての事かもしれないが加ッ 麺やお菓子など自由に食べているのでは意味がない) ・つくし寮の活用。せっかくの建物が生かされていない、もったいない。 ・4 人部屋の改善。私物を置けるスペースは全くなかろうとした部屋。生活感がないホールにたむろしている。 ・和式トイレから様式トイレへ。(高齢の人が増えている) ・段差をスロープへ。 ・高齢者、日中から布団に入っている人への支援、配慮のあり方。ポツリポツリと一部屋一人寝ている人がいるというのは活気を失う要因の一つ。寝ている人にも元気な人にも良い環境を考えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の高齢化顕著。建物が古いせいもあるのだろうが、第一印象的には冷たく暗い感じである。居住棟が即日常生活の場になっていることを考えれば、居室のハード面においての一工夫があってもと思う。 ・グループホームの立ち上げなどセミナーやボランティア講座など、地域へ向けての理解が見られる反面、利用者にあまり意欲が見られず、たとえ意欲が見られたにしても家族や周りの感情に、それが押しとどめられているように思えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事制限のない利用者で希望する方にはおかわりを提供する。医療的配慮の必要な方にその必要性を理解してもらう。 ・自立訓練や地域生活訓練を多く実施する。 ・GHの活動の場「地域作業所」として活用する。 ・計画的に予算措置しながら、生活感ある部屋に改善する(個室化、洋室化) ・他のスペースを個室化等に利用する。 ・計画的に予算措置しながら、トイレの洋式化、段差の解消を進める。 ・医療的な配慮をしながらも、興味ある参加しやすい活動を提供する。(健康運動、音楽療法、乗馬療法、各クラブ活動、外出、買い物等) 	<p>既に実施</p> <p>H16年度 既に実施 各年度事 算運営会 議にて 検討。</p> <p>H15年度 既に実施 既に実施</p>
<p>全 体 的 所 見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー開講など外部への発信など積極的にやっており、それなりの成果を得ているようだが訪問してみても施設の雰囲気、利用者の方々の無力的な表情、ホールにたむろして何となく時を過しているような状況に疑問を感じた。午前中お邪魔している間に仕事らしきものをして様子も見られず、ホールに集まっている人がほとんど。外部との交流や積極的に外に出ていくことも少ないようで施設の中だけで終始している様子。活気もなくよどんでいるものを感じる。職員の話では障害によることも大きいということであったが同じような救護施設(みやま荘)はもっと活気もあったし、外部へも出て行くなど利用者の方々が生き生きしていたように思われる。 運営のあり方考え方一つでこんなにも違いが出てくるだろうか。何がそういった違いを生み出していくのか、検討すべきであると思われる。行く所がないから我慢し 			

		ているというあきらめ気味の利用者の言葉に何ともいえない空しさを感じた。			
委員氏名 施設名		大川 尚委員	松橋みち子委員	対応策	実施期間
梓園	評価 で き る 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・オンブズマン制度の導入、園長と語る会の開催など利用者の声を取り入れる体制ができています。 ・施設内の老朽化、環境整備を年次計画のもと進めている。 ・生活支援センターを活用した地域生活移行の取り組み ・短期入所事業、通所事業の実施。 ・施設長から施設の将来のビジョン、経営改革の意欲が感じられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古い建物の改善に苦心している点。 ・対地域への活動の拡充に努力している点。 ・施設の置かれてきた現状から現実合った運営に力が注がれており、個別支援に努力している点、ふつうの暮らしが出来るよう支援している点。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それでも問題点は多い。丁寧に、高望みせずの一つずつ行う。 	<p>今年度はさらに推進する。</p> <p>現在進行中である</p>
	検討 ・ 改善 す べ き 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の利用者ニーズの把握と迅速な対応。 ・個別支援計画に基づいたサービスの向上。 ・支援スタッフの接客技術、マナーの向上。 ・地域生活移行に向けた積極的な取り組みが必要(施設外での日中活動の場の確保、生活支援センターの積極的活用と対象者の拡大、地域での生活体験の実施、社会資源の活用) ・自治会活動の支援(行事、旅行などの要望の多い事業への支援、情報提供) ・利用者への情報公開、施設運営方針の説明が不足している。 ・建物の老朽化、居住環境の改善が急務であると感じた。年度毎の改修は行っているが、大規模な改修、改築が必要である。特に介護浴の実施にあたっては、ハード面の不備から介助者の負担が大きい。介助者、利用者の負担を軽減する設備を設置し、入浴回数を増やしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援費制度に変わり、利用者の個別理解が充分になされておらず 3 年後の不安をかかえていることへの対応に、時間がかけられる必用を感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援とはその人の人格、家族、将来など全人生に向き合うことです。その重さの前で私達職員の深さと力量が試されます。決して言葉の羅列ではありません。少しずつその重さが理解されつつあります。これを大切にしたいと思います。丁寧に聞き取れること、関係者に意見を求めること、どうしたら利用者の願いが実現できるか共に考えること、これを進めます。 ・理論と実践が現場に根付くよう、OJT での教育機能やスーパーバイズ機能を強化します。ただ、時間はかかりますが人づくりこそ施設の根源的課題であると認識し努力します。 ・少なくとも、社会自立を目指す方にそのための体験や準備を理解いただけるように意図的なサービスを組み立てます。園長公舎での体験、アパートでの実習、社会生活力、プログラムの参画など進めます。また、アクティビティ(健康運動など)やアップルセミナー、理学療法、作業療法など一定のプランと方針の共有の下に実施します。 ・中途障害者が多くなっている状況でお互いに仲間としての守りあいがある傾向にありますが利用者同士の仲間づくりや助け合いが可能となるよう支援していきます。 	<p>現在進行中である</p>

			<p>・インフォームド・コンセントはまず、知らせること。そして納得してもらうことを含みます。それも利用者の理解力に応じた言葉でなされなければなりません。自治会活動や園長と語る会、苦情解決を通してモニタリングを行い、適宜修正しながら進めます。</p> <p>これまで5年という期間設定はありましたが、入所継続が暗黙の了解となっていました。それを3年で施設サービス以外の在宅サービスを活用しての自立生活を目指すとして強調したために起きた混乱であると反省しています。しかし、個別の話し合いや福祉セミナー、また、家族との話し合いでは趣旨を説明し、決して3年で強制的に退所させるのではないことをご理解いただいています。利用者の社会リハビリテーションを進める前提として生活・権利保障機能が卒園の使命であることを確認します。</p> <p>・基本的に32年前の基準でのハード設備であり、建て替えは急務です。しかし、それが難しい現在可能な限り優先順位を明確にしてサービスを組み立てます。全てのサービスが職員の手によってなされる以上、プライオリティを明確にして強化するサービスを捨てるサービスを仕分けしながら対応するしかありません。特徴ある施設とはその延長線上に実現するものと認識します。</p>	<p>現在進行中である</p> <p>現在進行中である</p>
<p>全体的所見</p>	<p>・サービスを提供する側と受ける側の認識、期待度に違いが感じられた。支援費制度に移行したことで施設のサービス内容やシステムが変わってきているが、その流れに利用者の戸惑いがあるようだ。</p> <p>職員の期待：自分でできること、自分たちでできることは自分たちでやるという意識がほしい。自分の将来について意識をもってほしい。(3年後の自分の生活スタイルを考えてほしい。)</p> <p>利用者の思い：今まで受けていたサービス、支援を続けてほしい。支援費制度になり、行事等の楽しみが少なくなった。行事は自治会でという負担が大きい。</p> <p>3年後の生活について考えるように言われたが、地域で</p>	<p>・利用者への要望への対応に配慮がなされている。</p> <p>・利用者自身が職員に対して職務上の差別を感じており、頼んだ事を何でもやってくれる職員をいい職員だと評価していることは支援者側の問題点である。</p>	<p>・確かに利用者と職員の社会的立場は異なります。その峻別をつけながら人間的交流によって小さく施設内で完結させず社会的に拡大するよう取り組むことが重要です。その立場から、職員は利用者にとって単なる御用聞きや便利屋になることなく、利用者に買い物手続きを実地に体験し、判断し、理解し、自立したときに困ることのないよう施設生活そのものを見直していきます。いわゆる施設内完結でなく社会資源を活用したソーシャルワーカーとしての役割についての研鑽を研修やOJTで日常的に推進します。</p>	<p>現在進行中である</p>

		<p>どのようなサービスが受けられるか、それによって在宅生活が可能であるのか、一人ひとりにあった話し合いがほしい。</p> <p>自治会や利用者主体の行事に移行するにあたって、段階を踏んだ進め方、利用者と職員の共通認識と理解が必要であると感じた。</p>			
委員氏名 施設名		笹原京子委員	阿部けい子委員	対応策	実施期間
鶴峰園	評価できる事項	<ul style="list-style-type: none"> ・電話の設置場所を設け、プライバシーが守れるようになった。 ・利用者に対する職員の言葉づかいは良くなり、呼び捨てなどもなくなってきた。 ・1日の流れの中で仕事をするということを大切にしている。 ・出入り口のスロープの改善など利用者の声に耳を預けて整備している。 			
	検討・改善すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務体制を見直し、土日にも職員を配置して余暇支援もできるように。(園のバスをもっともっと有効に活用して) ・食事の改善。(味付けが悪い、めっごはんも多い、とにかくおいしくない) <p>利用者のほとんどが感じていることで、これまでも言ってきたが変わらないとのこと。</p> <p>食べることは楽しみのひとつ、重要な部分でもあるので即改善すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風呂場入り口にのれんはあるが、脱衣場の様子が廊下からも見える状態で利用者は気になるとのこと。工夫、改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通所したいという利用者がいたが、送迎体制の対策を早急にとってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土、日、祭日の余暇支援については、早い時期に検討し、即できるものから実施していく。 ・送迎については、リフトバスの導入もあり(2/17)16年度で検討していく。なお平日の送迎支援(買物、クラブ、医療等)については実施していく。 ・栄養士を中心に、厨房職員、援助職員も一層の努力をして行く。 <p>利用者からも可能な限り、口頭、意見箱の設置、給食委員会等の機会を通して利用者個人々の意見にも充分傾聴し、できることは即実施する。</p> <p>利用者との話し合いのなかで、高低の調整や徹底等も講論しましたが、常にドアが開いている状態ではないので、このまま様子を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットについて、広報委員会、職員会議の場で検討していく。 	<p>16年度</p> <p>16年度</p> <p>16年4月</p> <p>通年</p> <p>16年4月</p>

鶴峰園	<p>・パンフレットの後ろに記載されている施設の概要の抜粋は、人権を尊重しているとは思えず、不愉快な文章であり検討すべきである。</p>		<p>・広報委員会、職員会議の場で検討していく。</p>	
	<p>全体的所見</p> <p>・職員に笑顔がなく、全体的に暗さを感じる。また、職員に何かを頼んでも「忙しいからあとで」と言われることがほとんどで、信頼関係も築けない様子。</p> <p>日々の生活の中で、人の顔を伺いながらの生活ほど精神的に悪いものはない。支援を受けなければならない立場の人にとっては、それが何倍もの大きくなることを支援する側は考えるべきである。</p> <p>特に、施設長の話や説明をしてくださる言葉の端々に、利用者の人権を真剣に考えている人なのだろうかという疑問と不快さを感じるが多かった。もっと勉強してほしい。2年続けて訪問させていただき、多少の改善は感じられたが、最も基本であり大切である職員の資質の面が全くといってよいほどよくなっていないことを知り、大変残念に思う。</p> <p>利用者の大半が施設に残りたいと言っている。イコール施設が大変居心地が良いからと勘違いしているようだが、他にいく所がない利用者の人がそう言わざるを得ない気持ちを理解すべきである。</p>	<p>・パンフレットの表面に「一人一人がハンディキャップに負けない立派な一市民」とあり、裏面に時代錯誤もはなはだしい（純粋だから仕方ないのだろう）「…入所させ、…職業を考え…」という言葉には矛盾を感じざるを得ない。話し合いの場として用意された体育館には、天井高くバスケットゴールネットが目につく。使う人がいるのかという質問に、園長の「無用の長物」という答え。利用者が使えるようなものに替える工夫をしてほしい。</p> <p>話し合いに出てくれた利用者は3名。これでは食事の味付けがまずい…など誰が言ったかすぐわかってしまうのではと思う。他の2施設と異なり、利用者との話し合いが終ると職員がズラリ出てきた。施設が生活の場として、ほとんどの比重を占める入所者にとり、食べることの楽しみは大きいはずである。職員に対しての「楽しみは何ですか」との問いに、利用者の笑顔とか、存在感とか、テストの模範解答のようなものを期待していたのではなかった。あたりまえの生活の中から生まれるほんの小さな楽しみや喜びがあっていいはず…。そんな何気ない楽しさをサポートしてくれるはずの職員が、利用者のほんの小さな不満でも、閉じ込めてしまうような態度には出てほしくないと思う。</p>	<p>(パンフレット関係)</p> <p>・重度の身体障害者で雇用されることの困難な人たちを入所させて、必要な訓練を行い、かつ、職業を与え、自立させる施設とする。(「身体障害者更生施設等の設備及び運営について」より抜粋)を「身体障害者更生施設等の設備及び運営について」により、身体に障害を持っている方で雇用されることの困難な人が利用し、作業や日常生活のなかで、利用者自身の自己実現を支援する施設です。に変更する。</p> <p>・共同作業科のリードについて「縫製班・紙器加工班・木工班ご注文あり次第何でも引き受けます。」から「縫製班・紙器加工班・木工班ご注文承ります。」に変更する。</p> <p>(バスケットゴールネットについて)</p> <p>・クラブ活動の中でボール、ディスク、シャトルを活用できる競技やゲームを工夫して取り入れるように検討し実施していく。</p> <p>(利用者との信頼関係の構築について)</p> <p>・職員のおごりを捨て対等の意識(職員が一步下がる姿勢で)を持ち、利用者の声に傾聴し、変えるものは変える努力をして、変えられないものは受け入れていく。また、利用者との懇談会や各委員会のメンバーに利用者が構成員になっているので、意見を反映しながら利用者職員が一緒になって施設をつくりあげていく。運営方針にも記載されているように職員が澁利とした姿勢で支援にあたり、職員、組織間の風通しをよくし、利用者との信頼関係を構築できるように一層の推進を図っていく。</p>	16年4月

			また、ぜひ改善してほしいと思ったのは風呂場と廊下の間仕切りが、腰高のれんだけでは廊下を通る人から脱衣姿勢が丸見えでは！（そんなことはないのだろうが・・・）女性は気にするのでは？		
委員氏名 施設名		楠 裕行委員	庄司 伶子委員	対応策	実施期間
ワ ク シ ヨ ッ ブ 明 星 園	評 価 で き る 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・施設立地環境が住宅街の中にあり、施設の中も光を充分に取り入れて、閉鎖感がなく、とても明るい感じがする。 ・廊下の掲示板上に権利擁護誓約書や苦情解決結果を張り出し、権利擁護と苦情解決に前向きに取り組んでいる。 ・情報開示コーナーがあり、利用者に対し様々な情報の提供に努める。 ・福祉QC活動に取り組んでおりその成果としてのゴミの分別回収表示などとてもみやすくなっている。 ・利用者用の出勤タイムカードがあり、一般社会と同じ意識で仕事に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の人権や要望等を考慮したサービスの提供（意見箱の設置、苦情解決委員の紹介、公衆電話撤退後の対応等々） ・利用者を職業人として位置づけた取組み（タイムカードの設置、有給6日間有り等） ・身体障害者デイサービス事業への取組み。 ・社会貢献への取組み（ベルマーク、古切手、ブルタブの収集等） ・自治会の設置と活動支援。 		
	検 討 ・ 改 善 す べ き 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画に積極的に取り組んでおられるが、工賃がからむからか利用者は全員で仕事をしなければならないという意識が強く、個別支援の真意を伝えることが難しいようで、もう一工夫必要に思う。 ・通所授産施設であるため、どうしても作業環境の雰囲気強く、もう少し生活環境としての工夫があってもよいように感じた。（食堂テーブルの花、BGM音楽など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスプログラムの実施と作業とのかねあいで、利用者には不満が残らない話し合い。 ・職員が利用者の本音が聞けるような人間関係の構築（意見箱にも入らないような） ・授産事業の見直しと授産科目の開拓。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長レベルで2～3人のグループ毎にもう一度説明の機会を設ける。（個別ではなく、2～3人のグループ及び各担当ではなく施設長レベルというもポイント）集団で何回話をしても、聴いていないという経過が見られるため。 ・ケース担当職員が個別支援の中味について個別に分かりやすく説明する。また、知的障害や高次脳機能障害者等に対しても、分かりやすい説明に配慮する。 ・個別支援計画管理マニュアル及びコミュニケーション支援マニュアルの活用を図る。 ・生活委員会と話し合いを持ち、意見を聞き対策を立てる。そして、飾り付け等の生活環境の工夫がどの程度必要なのかについて、利用者との話し合いも踏まえ検討する。 ・アクティビティプログラムに関する施設の考え方と作業及びその他のプログラムへの参加が両立できるように整理する。利用者への説明方法は 	<p>16年10月 まで (半年)</p> <p>16年10月 まで (半年)</p> <p>16年度1年 間</p>

ワー ク シ ョ ッ ブ 明 星 園			<p>上記の「個別支援の真意を伝えること」と同様である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業従事についての利用者意識の高揚（特に責任感等）を図るため、不良については一緒に直すことに等により、体験を通し分かりやすく対応する。 ・ケース担当職員と担当利用者とのコミュニケーションづくりの時間を設定する。 ・障害や個性等に関する利用者状況の把握と「こんなことを言っていたよ」等の情報を共有化をすすめ、利用者の気持ちを察知できる援助力を高める。 ・日常生活場面での面接等により、短時間でも利用者とのコミュニケーションを確立できる技法の習得を図る。 ・施設支援総体における、相互のコミュニケーションに留意する。「業務の共有化と周知等について」における、都内報告等の伝達システムを徹底する。 ・受託作業と自主製品を並行して行かざるを得ないが <ul style="list-style-type: none"> 托作業での利用者の自立度を高める。 利用者が主体的に取り組める自主製品の種目と人材の選定を進める。 現在の製品の品質向上と計画的生産、販路の拡大を進める。等の課題解決を図る。 ・作業評価及び工賃支給のしくみ等に関する「授産運営要領」の見直しを行い、授産施設利用者としての意識高揚を図る。 ・受託作業と自主製品の特性について、収入、労働量（人数、時間等）工程等の相違について、利用者に分かりやすく説明し、自主製品に対する利用者の意識を高める。 	16年度1年間
	全 体 的 所 見	<ul style="list-style-type: none"> ・情報公開と権利擁護の意識が徹底されている。 ・通所授産施設ということで、授産の経営も頭に置きながら、家族の方の施設に対する関心もあまりない中で、利用者の生活を丸抱えする訳にもいかず、施設の目標をどこにおくのか、職員の方の苦労や、入所型施設と違う難しさを感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援費制度への移行という大きな変革にどう対応していくか、職員も利用者も戸惑いながらも努力している思いが伝わってきた。 ・個別支援計画は、まず利用者一人ひとりとじっくり話し合うことがスタート点であると思われる。利用者との接点を多く持つことに期待したい。 	

			・授産事業は、社会情熱・景気に左右されることが多い。社会の動きを敏感にとらえながら施設の生きる道を見つけていただきたい。		
	委員氏名 施設名	大川 尚委員	松橋みち子委員	対応策	実施期間
吹浦荘	評価できる事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の推進と自立支援システムを重点に進めている。(地域生活移行に向けた支援体制、そして職員の意識はとても高く評価できる。職員の意識改革の成果を感じた。) ・地域交流、地域への移行を目指した積極的な取り組み、支援体制を実施している。また、利用者のニーズに促した事業を積極的に展開している。(グループホームの設置：2箇所、さらに1箇所は申請中、障害者相談支援センター「おおぞら」開設、障害児者地域療育等支援事業の実施、施設独自の取り組みである部外作業所「ちょこっと」、職場実習の実施、ショートステイ受入れ) ・地域交流が積極的に行われている。(地域の行事に積極的に参加している、地域交流を意識した活動・支援が日常に行われている。利用者が来園者に変なれている。挨拶が上手である。) ・ボランティアの積極的な受け入れ(年間1473名：受け入れ体制が整備され、活動メニューが豊富である。学校活動の受け入れが盛んである。体験学習、職場体験) ・多彩なサークル活動の展開(利用者がとても楽しみにしている：施設外の講師やボランティアによる支援が行われ、利用者が楽しみにしている。利用者作品がとても丁寧に使われている。写真、習字は額に入れ掲示してあった。利用者の作品を展示会等に出展している。) ・利用者にニーズに応えた対応をしている。(利用者の満足度調査の実施、休日の外出・買い物支援、自治会の支 	<ul style="list-style-type: none"> ・酒田市内や遊佐町内に、次々に関連施設を設置して地域に出て行ける場作りに努力している姿勢は素晴らしい。 ・豊富な活動メニューと、ボランティア等の外部者との交流も盛んに行われており、地域と密接になるよう心がけている施設独自の閉鎖的な雰囲気があまり感じられず、オープンな気さえする地域交流室がよく活かされている。 ・各室に施設可能で、プライバシーに配慮されている。 		

	<p>援、施設内に地域行事、イベント等のチラシが張り出ししている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内の環境整備（施設内の掃除が行き届き、清潔感がある。観葉植物が施設内の要所にあり、落ち着いた雰囲気をだしている。 ・利用者が施設生活を楽しんでいる。（自分の部屋で個人のテレビを楽しんでいた。各部屋：自分らしく飾っていた。日中は作業やサークル活動、その他は自分の部屋での生活を楽しんでいる。 			
<p>検討 ・改善 すべき 事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設外支援の増加、夜勤体制による日中活動支援スタッフの不足・影響が心配される。（施設内の支援スタッフ不足が日常化する中で、個別支援計画に添った支援が提供されているか気になった。重度者や訴えの多い利用者への支援に追われ、何もトラブルもなく過している利用者への事故や怪我の対応―災害時の通報、対応マニュアルがあるのか気になった。） ・施設内の生活に満足している利用者が多いが、地域生活の体験や地域生活移行に向けた意欲を高める取組みも必要である。（園外作業の対象者の拡大） ・多彩なサービス提供が行われている中で、職員への期待度や依存心が気になった。（エンパワメントの育成） 	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと外へ出てみたいという要望が多く出されたこと。 ・苦情解決委員のあり方。 ・食器が全て樹脂製品であったこと。 ・将来的にもこの施設に居たいという声が多く寄せられたことは、良好な環境での生活があるからと思える反面、生活空間が更に広がり選べる程の多様性を示せるようになって欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援をスタッフ全員で共有化し全スタッフで全員の個別支援に取り組む、定期的にケース・グループ担当が話し合い個別支援する。 ・随時個別支援を実施していく。 ・ヘルプコール、第 1.2.3 次連絡網職員などにより対処している。 ・身分証明書を持たせる。 ・生活ホーム利用の利用者の拡大をしていく。 ・地域経験、参加の場面を増やす。 ・荘外作業場の設定を検討していく。 ・父兄に地域で生活していことの意義、意味、楽しさ、実際の模様を研修していく。 ・グループごとの予算化を検討する。 ・利用者の要望を的確に捉え個別支援計画に盛り込み個人の要望に答える。 ・個別外出、グループ外出、ボランティアを活用した外出等形態を考える。 ・相談が特定の利用者に固定してるため苦情委員の方々には利用者の生活空間に足を運び聞き取りをしていただいている。 ・家族は思っているも苦情を言いにくい様子なので平成 16 年度は家族アンケート調査を行い意見を引き出すよう努める。 ・吹浦荘苦情解決委員会のパンフを玄関に置いているが、周知されていないため父兄会開催時再び説明する。 	<p>4 月</p> <p>4 月</p> <p>4 月</p> <p>4 月</p> <p>16 年 4 月</p> <p>16 年 3 月</p> <p>16 年 1 月</p> <p>16 年 6 月</p> <p>16 年 4 月</p>

				<ul style="list-style-type: none"> ・現在少しずつ瀬戸などの食器を揃えている。 ・施設生活から地域生活へつながる多様なプログラムを作り利用者への選択肢を広げる。 ・重度の利用者が地域生活を実現するためにはどのような社会資源が必要なのか検討する。 	<p>16年4月</p> <p>16年4月</p> <p>16年4月</p>
	全体的所見	<ul style="list-style-type: none"> ・作業が楽しいと話すと利用者がとても良かった。作業を行ったことへの対価(工賃の支給)があれば働く意欲がさらに増し、地域生活移行に向けた意識が高まると思われる。どのように実施できるか検討していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関を入ってから帰る時までいつも入所者がおり、その顔が明るく穏やかであることが特別印象に強く残り、一人一人がのびのびと暮らし大切にされていることが感じられて驚きでもあった。表情がとても良い、職員との信頼関係がしっかりと出来ている。 ・職員の姿はそれぞれのフロアにあって、常に密着して目が届いていると感心した。 ・社会資源との連携もとれており、青年の家や地区公民館の活用、体育館の一般解放など積極的になされている。 		
委員氏名		井上 博委員	富樫悦夫委員	対応策	実施期間
施設名					
慈丘園	評価できる事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブセンターの設置。 ・重度型グループホームの設置。 ・親の会と連携しての自閉症セミナーの開催。 ・プール指導と専門家の連携(プールワーク) ・ボランティア養成の教室開催(ボランティア体験教室) ・居宅サービスの展開。 ・献立の写真掲示。 ・行動障害援助プログラムの作成。 <p>多方面にわたって専門的なレベルまで向上に努めている努力に敬意を表したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建物は古いですが、男子小便器などすみずみまできれいに掃除がなされている。 ・デジタルカメラを使って献立表を見ることができるようビジュアル化の工夫がされている。 ・手摺りが廊下の両側に備えられている。 ・地域の方々のボランティアの受け入れが定着しており、時間をかけた取組みが実を結んでいる。 		

	<p>検討・改善すべき事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の内容、より具体的な内容が望ましい。 ・夏期、冬期の帰省期間の長さ。 冬期 2 週間の帰省は家族の高齢化等を考えると強制ではないにしても長すぎるのではと思う。 ・利用者中心の日課からすれば、午前中の職員会議は設定すべきではないと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 畳に 4 名の部屋はあまりにも狭く感じられる。部屋を区切ることによって 2 人部屋にしようと考えておられたが、定員を少なくすることにより、ゆったりとした空間を提供する方が自然であると構造上からも思われた。 ・入浴する時間帯が早すぎるように思われる。ゆとりを持ってつろいで入浴できる環境を設定してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な個別支援内容について、より個別化を進め契約違反とならない計画と実践を行う。 ・夏、冬帰省期間は現在も強制はしておらず目安として示している。盆行事 4 日、年末年始 8 日とし期間を短縮し目安として示す予定でいる。 ・会議については、開催時間を午後にすることで検討している。 	<p>16 年個別支援計画に盛り込む</p> <p>16 年夏季から実施予定</p> <p>16 年 1 月から試行的に 3 時から開催する。</p>
	<p>全体的所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・庄内における知的障害者福祉の拠点としての役割をはたし、多くの先駆的取組みは素晴らしい。地域生活移行と利用者の地域生活体験を積上げられて、利用者ニードを顕在化させていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者との面談では、能力的な面で自分の思いを上手に表現できないために、どの質問に対しても「いい」と答えていたのか。あるいは、いろいろな体験が不足しているために比較することができないために？との疑問が残った。 施設以外の場所にジョブセンターを作るなどして、障害の重い方々でも地域で生活できることをめざして取り組んでいる点が素晴らしいと思われました。 		
<p>委員氏名 施設名</p>	<p>楠 裕行委員</p>	<p>庄司 伶子委員</p>	<p>対応策</p>	<p>実施期間</p>	
<p>あさひ寮</p>	<p>評価できる事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 49 年に事業を開始され、建物は築 29 年と老朽化しているが、長年の事業経験の積み重ねからくるきめ細かな事業展開、地域との連携、サービスの体系は素晴らしいと感じた。 ・施設の中だけの生活ではなく、地域生活移行プログラムとしての「地域で暮らそう大作戦」「まちくらプラン(町で暮らす)」「ちかくプラン(近くで暮らす)」は利用者の立場に立った素晴らしいプランである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種療法への積極的な取組み(特に乗馬療法には注目) ・グループホームへの取組み。 ・短期入所事業(知的障害児含む)と通所事業への取組み。 ・食事サービスへの取組み(3食選択メニューの提供とバイキング等) ・工賃支給体制変更への取組み。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・作業サービスの「私たちの仕事」では、確実に地域に絡んでプログラムを組んでいる。 ・利用者の表情がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の設置と活動支援。 ・余暇活動への取組み（カラオケボックスの設置等） 		
検討・改善すべき事項		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者との話し合いで一番早くの訴えが「盗人」がいて困るということだった。改善へ向けての対策を早急に望みたい。 ・グループホーム、独身寮（3ヶ月だけでも）への願望が強かったが、居室定員の見直し、プライバシーが守られる配慮がほしい。 ・長靴を居室まで持ち込まなくてもよい方法は？ ・職員はもっと明るくていい。 ・職員は、親身になって話を聞いてくれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人保管ボックスの利用と、保管ボックス・居室内個人収納部分の施錠の徹底。 ・自治会を通じての利用者への啓蒙。 ・独身寮・まちくら・ちかくらでの地域生活体験等の利用により寮内の個人スペースの確保に努める。 ・居室の洋室化、タンス仕切り等で、個人のプライバシー確保に努める。（年に一居室づつ整備） ・収納部分についても倉庫の増を考慮。 ・玄関周りの整備。 ・職員の意識統一。 ・職員と話をする時間を設定し対応していく。（職員のコンタクトパーソン） ・各チームでの個別支援計画に基づき統一した要所を押さえた利用者との対話をしていく。 	今年度中 ～16年度
全体的所見	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の事業を組み立てるのに地域の力を利用していること、この点に一番敬服しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者との話し合いでの第一声「職員は親身になって話を聞いてくれない」、これは他の利用者の方々の多くが思っていることだろうか。利用者一人ひとりと向き合う時間を見つけて欲しいし、職員の頑張りが伝わるような関係を作りたいもの。施設は、老朽化していても改造するなど（2人部屋、児童短期入所室等）積極的な取組みが感じられた。 支援費制度への移行による変革のポイントを基本にし、各種事業が実施されているが、施設長の開 		

			口一番「職員の意識改革が課題」に尽きるのでは と思う。職員が変われば施設も利用者も変わるこ とになるだろう。		
委員氏名 施設名	楠 裕行委員	庄司 伶子委員	対応策	実施期間	
こ だ ま 寮	評 価 で き る 事 項	<ul style="list-style-type: none"> 施設の中だけの生活ではなく、地域生活移行、自活訓練 事業を積極的に推進されている。(家族の方の賛同は得 にくく、苦労されている。) 利用者の表情がよい。 あさひ寮との連携も取りながら、しっかりしたサービ ス業務体制になっている。 仕事ができない利用者のために、音楽療法や寮内活動プ ログラムを組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報公開、掲示物の工夫(苦情解決委員の顔写真 入り掲示=人目をひきつける等) 先駆的、開拓的事業(自活訓練事業・21プラン) への取組み。 独身寮や職員住宅の活用(利用者から好評だった) 地域社会との連携がうまくいっている。 余暇活動への取組み(特にお話ボランティアの活 用、各種愛好会活動) 工賃支給体制変更への取組み。 自治会の設置と活動支援。 毎日入浴ができること。 		
	検 討 ・ 改 善 す べ き 事 項	<ul style="list-style-type: none"> 利用者との話し合いで「盗人」がいるので困ると の訴えあり。改善にむけての手立てを早急に望み たい。 作業に就かず寮に残っている利用者は全て体調不 良の方なのか。かわり方に工夫がほしい。 居室定員の見直しとプライバシーがある程度守ら れる配慮。 職員はもっと明るく。(覇気が伝わってくるような) 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者に繰り返し私物の管理について協力をお願いしていく。また、管 理の難しい利用者には職員が預る等の対応をしていく。 これまでは、こだま班としてグルーピングしていたが、今年度から出席 の有無は別にして各作業班に所属して貰い作業への参加を促し、残った 利用者には職員を配置し、健康運動、音楽療法、絵画、散歩等のメニュ ーを提供している。今後は第三者委員にもこのことを説明し理解を得て いくようにする。 入所定員は勝手に変更できないので、4人部屋を2人部屋二つに改装し ている。今後も最低でも年間に一部屋を年次計画で改装していく予定で ある。 挨拶をはっきり、言葉使いをハキハキと姿勢を正して、外来者に対応す るよう指示する。 「やれば報われる」のシステムが必要である。 	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>	

	<p>全体的所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あさひ寮と同様に長年の事業経験からくる事業展開に敬服しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援費制度への移行により、施設のあり方にも大きな変化が求められている。サービス提供者と利用者という対等の立場に立ち、施設が一丸となって取り組まれていると各事業等から伺うことができた。しかし、職員が命令、指示でやらせていないか、施設の生活においてどれだけ利用者を選択権があるか等、施設内でのチェック体制の確立も必要ではないか。 きのこ栽培、窯業、畜産等の独自作業に加え、地域へ出向いての作業への取組みなど、授産施設の歩むべき1つの方向を見た思いがした。 		
<p>委員氏名 施設名</p>	<p>大川 尚委員</p>	<p>松橋みち子委員</p>	<p>対応策</p>	<p>実施期間</p>	
<p>し ら さ ぎ 寮</p>	<p>評 価 で き る 事 項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しらさぎ寮独自の福祉倫理委員会の設置。 ・職員行動基準の自己評価、施設長の個別指導を毎年実施し、利用者支援に効果が出ている。 ・個別支援計画作成にあたって、家族、本人、医師、関係スタッフが支援会議を実施している。 ・Aファミリー 給食掲示方法、利用者の所在、行き先が一目でわかる表示あり、工夫があった。 ・二人部屋やフロア化など年度毎の整備が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤制による24時間ケア体制で安全と安心が得られている。 ・強度行動障害特別処遇事業への取組みによる施設内の整備と職員の配置で十分な支援に努めている。同時の啓発活動としての研修、相談事業を展開している。 ・居室のフロア化や2人部屋の改造が工夫されている。 ・職員の質の向上に関して、自己チェックなどに努め、倫理綱領遵守の努力がなされている。 		

<p>検 討 ・ 改 善 す べ き 事 項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害者特別処遇事業の実施に伴い、Bファミリー利用者への配慮が必要。(Bファミリーでは張り紙がでず殺風景であるが、ガラスにイラストとかペイントなどの工夫がしてあった。) ・地域生活移行に向けた取組み(生活体験)敷地外の作業場の確保。生活空間の拡大の促進。 ・個別的な余暇支援の充実(趣味活動、外出支援) 	<ul style="list-style-type: none"> ・強度行動障害者の入所により生活空間への配慮が変化せざるをえない現実ではあるが、暖かみのある部分も必要ではないかと思われる。ほっと安心してポスターや絵や写真などが眺められる部屋(フロア)が、多くの入所者の方々に必要と思われる。入所者のニーズを先に取り入れる必要がある。 ・カギをかけない工夫をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の個室(2人部屋)利用。 ・生活環境改善の試行の繰り返し(ガラス絵・掲示ボード・カバー・壁の塗り替え他) ・一部対象者の訓練棟における利用時間の拡大。 ・指摘事項については現在も進行中。必要時は職員を時間外で配置し対応のほか、専門スタッフと早遅勤務者を優先して配置しているが解消には至っていない。 ・寮内での機能分化と各関係機関との連携強化の推進。(現在、寮10ヵ年計画の中で年次計画が掲示されているが具体H16年度～的な内容についての早期実現を図る県との連絡協議会の中で検討・調整中～年2回事業団には居住棟の設置を申請中) ・個別支援プログラムに基づく支援の充実。 ・H14年度から取組み始めた利用者に加え12名程を対象者として生活体験を繰り返しながら、地域移行に向けて取組みを開始の予定。 ・年次計画に基づく実施及びその推進。 ・現在、地域資源や所内機能を活用した取組みを実施中(単独では難しい)今後も調整しつつ継続。 ・個別支援プログラムによるサービスの多様化により少ない職員で時間をフルに活用しサービス提供を心掛けている。(ボランティアの受入れの他、外出時のボランティアの活用や外部ヘルパーの活用をはかり個人のニーズに対応するよう努めている。 ・特別処遇事業対象者を含め多様な利用者を受入れていて、職域部分でスムーズな進行ができかねる部分と利用者の方に悪用される所があり今のような状況になっている。今後、工夫できる部分については改善していきたい。 	<p>当初から H13年度～ H14年10月～ 当初から H16年度～ H16年度～ H15年度～ 継続 H11年度～ 随時</p>
--	---	---	---	--

	全体的所見	<ul style="list-style-type: none"> ・しらせぎ寮独自の倫理委員会の設置と自己評価による検証（毎年実施）と施設長の個別指導が行われ、利用者の人権擁護に取り組んでいる。 ・利用者から「施設内が騒がしい」「ゆっくりできない」との声が多かったので、気分転換ができる環境も必要のようである。施設内の装飾の改善や観葉植物の配置なども検討してほしい。（専門家のアドバイスを得てはどうか。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドアに施錠することが多く、異様な感じがした。 ・職員室の方にもカギがかけられ廊下と通じない状態にあった。安心してのびのびとした生活が得られているとは思えなかった。もっと目が届くようであって欲しい。 ・午後の2時間半だけ施設の中をめぐっても慌ただしく評価が形式的になる気がして、把握しきれない感が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の居住エリアなどは以前から実施している。 ・生活環境改善の試行の繰り返し。 ・順次、居室改造のほか来年度中庭に活動エリアを設置の予定。 ・他、1の対応策と重複。 ・必要に応じ検討していく。 	<p>継続</p> <p>H13年度～</p> <p>継続</p>
委員氏名 施設名	井上 博委員	富樫悦夫委員	対応策	実施期間	
ひめゆり寮	評価できる事項	<ul style="list-style-type: none"> ・情報開示（苦情解決制度、倫理綱領等の掲示） ・夜勤体制の導入とファミリー中心の支援。 ・洋室への改造。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物が老朽化している上に、障害が重いために破壊行為があるために、繰り返し修理をしている状況の中で、綺麗な環境を作ろうとする努力が見られた。 ・「木枯らしで冬への心のみじたくをする」のうたが貼ってあり、言葉の理解ができない方々にこそ職員側があえて文字をおしてゆとりの空間を設定している姿勢が評価できた。 		
	検討改善すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の中にこれまでの歴史や実践の集積が少ないことが残念に思われる。 ・ノーマライゼーションの具現化や地域生活移行の推進といった目標が計画の中に具体的になっていない。 ・帰省期間があまりにも長すぎると思われる。障害の重い人たちを迎える家族の負担の軽減をはかる軽減をはかる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋が狭く、人数（利用者）が多すぎる。 ・一部の問題行動を持つ利用者に基づ準を合わせているために、多くの方々犠牲になっている面がハード面で多く見られた。例えば、話し合いに参加された方々ももっともっと落ち着いた環境の中で、また綺麗な環境の中で生活ができると思われる。 ・個別支援にもっと工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーマライゼーションの具現化に向けて、研修の継続、呼称や言葉使いの改善、施錠の改善等に継続的に取り組む。また、地域生活に向け、具体的目標を明示していく。 ・バスの運行日だけ決めておき、帰省期間の設定はしない。 ・大部屋について、間仕切りする方向で検討する。 ・旧特浴室を改装して造った多目的部屋（アットホーム）の活用推進。 ・個別室を2室設けるための改修工事を行っている。 ・全体的に狭く老朽化しているため、早急な改築が必要である。 	<p>4月</p> <p>8月</p> <p>4月</p> <p>継続実施</p> <p>3月</p>

	全体的所見	<ul style="list-style-type: none"> ・総合コロニーの中の1寮ということで地域との関係や社会資源の活用といった点で制限があるのは理解できるが、これがひめゆり寮といった特色が少ないと思う。 ・障害の重い人が多い寮として、コミュニケーション手段の研究や介護のあり方についての研究実践集団であってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらためて、障害の重い方々にもっともお金を費やし、時間を費やす必要があることを教えられました。極端な言い方をあえてさせてもらうと、寮全体を作り替えてしまうべきであると思われた。もっと少人数の方々（どうしても地域で生活が困難な人）が、ゆったりとした環境で生活することを保障すべきである。 ・私は、この寮の中で生活することはできません。 		
	委員氏名 施設名	笹原京子委員	阿部けい子委員	対応策	実施期間
まつのみ寮	評価できる事項	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下等に職員の写真をはるなど、働いている人の顔が見えるようにしている。 ・保護者からの苦情も扱い上げるようにしている点（保護者が来園するような行事の時はオンブズマンにも来てもらうようにしている。） ・1人部屋、2人部屋の推進、部屋の戸一枚にも家庭的な雰囲気が感じられるし、日々の生活の快適さに重点をおいている。 ・食堂や男性棟の方にも花を飾ったり、手作りの物を置いたりなどの配慮があり、温かさが感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各ファミリー、居室や食堂における利用者への「明るく楽しい生活」醸し出す工夫が見られる。連絡の要所要所に貼り付けてある個々の動向を写真入りで示した予定表等もその1つであろう。 		
	検討・改善すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務体制をとることにより日中活動が手薄になる点。 24時間ケアは大変良いことだとは思いますが、それによって日中の職員数が減ることは、利用者の方々へのサービスが著しく低下することだと思われる。 ・土日の職員体制を見直し、余暇支援などでもできるように（保護者の承諾とは関係なしに気軽に） ・グループホームの体験も一人でも多くの人ができるように。（保護者の承諾とは関係なしに気軽に） ・ごはんのおかわりができるように。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員アパートの1つを自立訓練の場として使用しているようだが、利用者の自立生活への要望と職員側の支援体制が必ずしも一致していないのは、との懸念をもった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜勤体制をとることにより、日中の職員数が減ることは確かですが、夜間のサービス需要もあり、一概にどちらが良いとは言えないものがあります。家族からは「夜も安心していられる」との声もあります。職員の回転を考え、トータル的なサービスの充実を図っていきたいと思います。なお、16年度中に検証したいと思います。 ・限られた職員数ですので、どの部分に重点をおくかで、職員を配慮することになります。日常一般的な生活援助のため、土日でも早番・日勤・遅番・夜勤の職員が必要な状態です。更に増員すれば、平日の日中活動が成立たなくなってしまう。 ・当寮では地域に出での援助（職員数が必要）も大切なことと考え、現体 	16年度 16年度

				<p>制で様子をみたいと思います。なお、16年度中に検証したいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・16年度より自活訓練事業を取り入れ、拡大していく予定です。しかし、まだまだ限られた実習施設しかありませんので、回転を考え、より多くの人に体験の場を提供するように努めていきます。 ・際限なく食べる人もおり、自由におかわりは難しい状態です。今後も健康状態等を把握しながら、個別に対処していきたいと思います。 ・利用者の方は経験がなく、どういうものか分からない方が殆どです。なお、インホームドコンセントに努め、実態に沿った個別援助体制の確立を図るようにしていきます。 <p>いろいろな経験をして頂き、選択肢を増やして頂きたいと思っていますところ です。</p>	16年度 継続
	全体的所見	<p>・利用者の方は、特に不満を感じているわけではない。しかし、施設の中だけの生活が大半で外の世界をあまりにも知らなさ過ぎるように感じる。その限られた空間の中だけのささやかな満足であって、いろいろな経験や豊かな生活を送っているとは、決して言えない。</p> <p>もっともっと地域へ出ていけるような環境を整えて欲しいと思う。</p>			